

Durham 2012/11/16 19h59

皆さま

その7をお届けします。

こちらはすっかり冬で、クリスマス準備の気配を感じます。  
私も校長として、明日からクリスマスカードのサイン作業に入ります。

忙しい東京に1週間出張してました。何もなしスローテンポの田舎に帰って来ると、  
これはこれで良いものだと感じます。  
東京も寒くなってきたようです。お元気で。

増淵 文規

## 英国ダラム便り（その7）

### [ささやかな外交]

10月20日（土）紅葉真っ盛り（大体が黄葉ですが）のダラムで帝京祭を行いました。設立以来23年間続けている学園祭ですが、すっかりこの地に定着した行事になっていて、今年も招待客を入れて地元の住民600人くらいが遊びに来てくれました。開催の1週間以上前から学生は準備に大わらわで、当日は折り紙、書道、茶道、着物（ゆかた）の着付けなどのパフォーマンスに大活躍。ダラム大学の英国人学生も多数応援に駆けつけました。英国学生ヴィザ制限の影響で今年の秋は帝京学生数が極端に少ない中、窮余の一策で三菱商事ロンドンのご婦人数人に助っ人をお願いし、焼きそばやトン汁の模擬店運営を行ってもらいました。昔の職場はやっぱりありがたい。帝京祭以外でも色々助けてもらっています。校長の私は何をするかといえば、ダラム市長夫妻やダラム県議会議長夫妻といったVIP招待客を入れ替わり立ち替わり2時間も3時間も接待することです。社交的な会話が接待の最大ポイントですから、ニッポンジン男子1名、本当に疲れました。ただこちらの人は皆社交会話が上手で、次々に話題を出してきてくれますから、その点は楽です。社交べたの私には大変良い勉強になっています。

真剣を使った居合い切りや合気道は地元英国人のクラブが毎年ボランティアで行ってくれていて、大人気のパフォーマンスです。帝京校舎の中庭は玉砂利を敷いた日本庭園風に仕上がっており、そこでの居合いは迫力十分。まさに日本の美ですが、これを英国人だけの侍たちが行うのがとても良かったです。田舎でも日本の武道は人気が高いですね。

わがキャンパスの隣にダラム大学のオリエンタルミュージアムがあります。特にエジプトのコレクションはさすが旧大英帝国という立派なものです。ここが帝京祭訪問者に対して無料入場のサービスを提供してくれました。

こうやってダラム大学や地元の皆さんが応援してくれて、なかなか見事なイベントでした。20年以上も続けてきた歴史の重みを感じました。それがすっかり根付いて地元の人に愛されていることを実感できて嬉しかったですね。

模擬店の売り上げは全額地元の福祉関係団体に寄付します。11月下旬には市長が当方学生全員を夕食に招待してくれます。ささやかですが、学園祭という枠を超えて立派に民間外交を行っていると思っています。一方あまり批判してはいけませんが、少なくとも当地では官の方の外交の姿はほとんど見えません。この地域で日本企業はずいぶん地元経済に貢献していて、日本のイメージは非常に良いだけに、少し残念です。

マンガ文化に触れなかったのはちょっとまずかった。今回の反省点です。毎年マンガに強い学生が必ず数人います。日本のマンガ好き学生のマンガ・レベルは相当のものです。来年の帝京祭の頃にオリエンタルミュージアムが日本文化展をするそうで、マンガを前面に出す意向です。当方に協力要請が来ていてこちらも望むところです。うまくコラボして、今年以上に祭りを盛り上げようと今から楽しみにしています。

#### [スコットランド]

2014年にスコットランド独立の国民投票が予定されています。10月半ばに英国政府が公式に認めました。投票しても「独立」はまずないという中央政府の読みだろうとも言われてますし、イングランドの人の多くの見方も「独立は無いよね」と思っているようです。スコットランドでの最近の世論調査では「独立賛成」は35%前後のようです。10月22日の日経新聞記事にあるように、国家を超える仕組みのEUという求心力があるからこそその独立運動だと思います。寄るべき大樹が英国以外にもあるわけです。スコットランドとイングランドは過去に激しい争いがありましたが、私ども外国人には「独立」をするメリットが良く分からないところです。私の周りにも何人かスコットランド出身者がいますが、すっかりイングランドに溶け込んでいて、何で今さらと思ってしまう。ダラムのある北東イングランドは国内で2番目に貧しい地域で、北海油田の恩恵を受けるスコットランドとは一人当たりGDPにかなりの差があります。中央政府だけでなく地方政府も厳しい歳出削減を行っているのに、お隣のスコットランドは相変わらず色々補助金があっ

てうらやましいという声を当地で良く聞きます。金持ちスコットランド（石油成金ですが）としては、英国中央政府に付き合わされることなく自由に金を使いたいという思いも強いのでしょう。英国で今年（国立）大学授業料が約3倍になりましたが、スコットランドでは据え置きです。エジンバラに行った時、見たこともないポンド紙幣をお釣りで受け取ってビックリしました。確かにスコットランドは色々独自色が強いですが、少なくとも私の目には、スコットランドで独立に向けて愛国心が昂揚しているようには見えません。ベルギー・フラマンの独立運動もどうでしょうか。たまたまカレッジ・ディナーで隣り合わせたベルギー人教授（フラマン地区）は「対ワロンの感情は複雑ながら、独立は政治的なポーズに過ぎない」と断じていました。フランス語圏のワロン地区より豊かなフラマン地区が、ワロンに足を引っ張られていると思ひもあるのですが、この教授曰く「政治の中心のブラッセルがフラマン地区にぼっかり浮かぶフランス語圏の飛び地で、フランス語族が牛耳っているのが面白くない」。なるほどです。でもこれも独立は無いでしょう。

2012年11月14日

増渕 文規